

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
R 7 年 7 月 5 日	
(宛先) 秋田市長	
提出者	
住 所 秋田市寺内字三千刈360番地2	
氏 名 株式会社 ナガタ 代表取締役 永田 勲	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 018-827-5475	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 ナガタ
事業場の所在地	秋田市寺内字三千刈360番地
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	資本金6550万
③従業員数	20人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	産業廃棄物発生現場→産業廃棄物収集運搬→処理施設

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

産業廃棄物統括責任者（代表取締役）
 産業廃棄物管理責任者（常務）
 産業廃棄物処理責任者（作業所長）
 産業廃棄物処理担当者（工事担当者）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 6 年度）実績】別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） 再生可能な廃棄物は可能な限り分別して委託処理する。		
②計画	【目標】別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組）現状の取り組みを継続実施する。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 分別用のコンテナを複数設置し、品目別に分別を実施する。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状の取り組みを継続する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(6 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(6 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	木くず	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減 量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自社にて木くずは破砕処理を行いチップに加工		
②計画	【目標】別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類	木くず	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減 量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 受入数量の拡大のために工場敷地の改善など。		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(年度)実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) マニフェストによる適正な管理 可能な限り再生利用業者へ処理委託		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 優良認定処理業者、再生利用業者への処理委託を推進する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【別紙】

■産業廃棄物の排出抑制及び処理の委託に関する事項

【前年度(令和6年)実績】

	産業廃棄物の種類	混合廃棄物	コンクリートガラ	木くず
①現状	排出量	122(t)	2,189(t)	484(t)
	全処理委託量	122(t)	2,189(t)	484(t)

	産業廃棄物の種類	混合廃棄物	コンクリートガラ	木くず
②計画	排出量	110(t)	2,000(t)	470(t)
	全処理委託量	110(t)	2,000(t)	470(t)

	産業廃棄物の種類	繊維くず	がれき類	ガラス陶磁器
①現状	排出量	14(t)	7(t)	192(t)
	全処理委託量	14(t)	7(t)	192(t)

	産業廃棄物の種類	繊維くず	がれき類	ガラス陶磁器
②計画	排出量	12(t)	5(t)	185(t)
	全処理委託量	12(t)	5(t)	185(t)

	産業廃棄物の種類	金属くず	石膏ボード	廃プラ
①現状	排出量	7(t)	122(t)	31(t)
	全処理委託量	7(t)	122(t)	31(t)

	産業廃棄物の種類	金属くず	石膏ボード	廃プラ
②計画	排出量	5(t)	110(t)	28(t)
	全処理委託量	5(t)	110(t)	28(t)

	産業廃棄物の種類	アスファルトガラ		
①現状	排出量	38(t)		
	全処理委託量	38(t)		

	産業廃棄物の種類	アスファルトガラ		
②計画	排出量	30(t)		
	全処理委託量	30(t)		